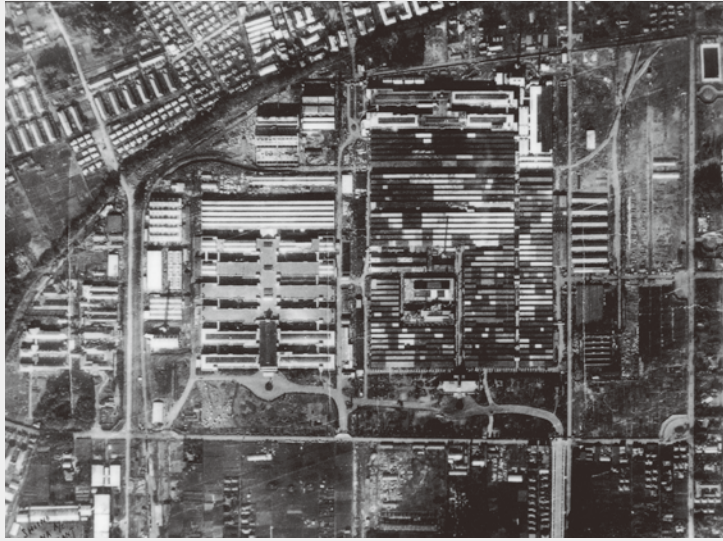


柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



中島飛行機株式会社武蔵製作所
昭和19年に米軍機が撮影したもの
(故古内竹二郎氏所有)

爆弾の破片が語ることは…

中島飛行機と空襲

柳沢公民館の入り口に、さびて茶色に変色した「爆弾の破片」があることをご存じですか？

保谷庁舎北側を流れる新川の改修工事をする際に発見された250キロ爆弾の破片で、柳沢公民館に展示されるようになって30年ほどになります。

時々寄せられていた「歴史的に重要な資料なのだから、きちんと展示してほしい」という声に応えるために、今、柳沢公民館では展示のリニューアルに取り組んでいます。

なぜ、西東京市に爆弾が…

戦後ヘッドダウンとして発展してきた、戦争とは無縁とも思える西東京市で、なぜ爆弾が発見されたのでしょうか？

戦争中、武蔵野市の、現在の武蔵野市役所や都立武蔵野中央公園を含む一帯(現八幡町二丁目、緑町二・三丁目周辺)には、日本最大の飛行機工場の一つである中島飛行機株式会社武蔵製

作所(以下「武蔵製作所」)がありました。この工場が本土空襲の第一目標となったのです。

中島飛行機とは

中島飛行機株式会社の発動機工場は、当初、現在の杉並区荻窪にありました。軍事力の主力が巨大な艦船から航空機へと移り、航空機の重要性が明らかとなり、生産工場の拡張が必要となったため、まず、昭和13(1



で、旧保谷町では8人が亡くなりました。

当初、アメリカは明るい昼間に高度1万メートルから爆弾を落としていました。「高高度精密爆撃」と称していましたが、前述の「報告」によると、8回の空襲が実行されました。航空機工業の施設に対し投下された全爆弾の約17%(2,838トン)が武蔵製作所に投下され、そのうちの約1割が工場構内に落ちたといわれています。つまり、ほぼ9割の爆弾が工場以外に落ちたということです。工場周辺の農地や住宅に落ちた爆弾で、市民の被害も甚大だったといわれています。

避難した防空壕が崩れて圧死した人や、艦載機の機銃掃射で命を落とした人もいました。空襲が頻繁になると、爆弾の威力も250キロ爆弾から500キロ爆弾、1トン爆弾と大きくなっていきました。

また、空襲は、爆弾だけでなく、焼夷弾や時限爆弾も投下されました。家が燃え、不発弾だと思っていた爆弾が突然爆発し死傷することもあったそうです。当初昼間だった爆撃は、ある時期から夜間にも行われるようになったといえます。あかりのない夜間の空襲では、正確に武蔵製作所を爆撃することは難しく、旧田無町、旧保谷町合わせて200人以上が犠牲になりました。

西東京市が受けた空襲

『米国防略爆撃調査団報告』によると、武蔵製作所は、昭和19年半ばには日本の航空機用発動機の、実に27%を生産していました。そのため、アメリカはこの工場を本州攻撃の第一目標としたわけです。

サイパン陥落後、米軍機が本州に飛来するようになりましたが、東京が最初に空襲を受けたのは昭和19年11月24日のことです。その攻撃目標は武蔵製作所

忘れられない音

芝久保町在住の濱野菊江さんは、昭和5年生まれで、現在、87歳。現田無小学校の卒業生で、高等女学校に通っていた時、学徒労働員で、国分寺にあった南部銃の製造所で働いた経験をお持ちです。旧田無町の空襲についてお話を伺いました。



はまの きくえ 濱野菊江さん

中島飛行機武蔵製作所への艦載機による攻撃が行われるようになってからは、空襲警報がなると、工場で働いている人たちが数台のトラックの荷台に分乗して、青梅街道を屋敷林の多い小平方面へ逃げて行きました。荷台に乗れるだけ乗って…。私の家の近くにトラックがとまったこともありましたが、荷台から降りると、皆、ぱーっと散らばって、艦載機に見つからないように木陰に入って身を隠しました。屋敷林の枝は道路の上にも大きく伸びていて、トラックも隠れることができませんでした。住民も青梅街道をぞろぞろと逃げて行きました。艦載機の機銃掃射から身を守るうと、10歳くらいの子どものままだが固い敷布団をかぶっていました。よく持てたものだと思います。それを見て、私たち家族も敷布団で

体を覆って、一緒に小平の方へ逃げたこともありました。秩父に疎開していた母と姪たちを訪ねた時、電車で乗り合わせた人に田無から来たことを伝えたら、「田無は全滅したのでは？ 生きている人がいるんですか」と驚かれました。田無への空襲は度々報道されていましたが…。

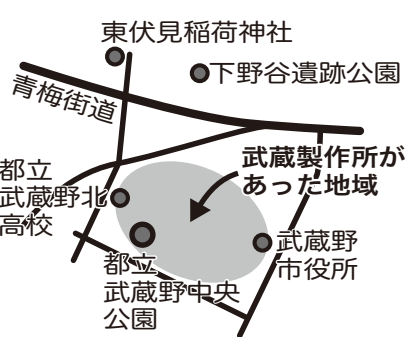
B29は高い所を飛んでいて、トンボくらいの大きさにしか見えませんでした。高射砲を撃っても届かなくて、1〜3くらいの高さの所で火花のようにボンと破裂していました。爆弾が落ちる寸前に、キリキリという耳をつんざくような音がしました。低空飛行で人を狙う艦載機の機銃掃射はバリバリバリバリ…。まるで豆を炒るような音でした。私の兄の家には、機銃掃射を受けた跡が残っていました。

《参考文献》

- 『米国防略爆撃調査団報告 第18号』(航空自衛隊幹部学校(訳編)、航空自衛隊幹部学校(出版)、1960年)

お知らせ

芝久保公民館では、来年3月に実施予定の「平和を考える講座」で、中島飛行機株式会社武蔵製作所関連の戦争遺跡を巡るフィールドワークを計画しています。



※艦載機
艦船に搭載され、飛行甲板上で発着艦する航空機